

(様式1)

令和5年度 学校評価結果報告書(特別支援学校用)

(1) 学校教育目標	将来の自立と社会参加を目指し、児童生徒一人一人の障害の特性などに応じた教育課程を通して、心身の調和のとれた発達を促し、心豊かにたくましく生きる児童生徒を育てる。
(2) 現状と課題	本校は知的障害がある児童生徒を対象とした小・中学部を設置する特別支援学校である。カリキュラム・マネジメントによる教育課程の改善、教員の専門性向上と学び合いを支え合う教職員集団による教育力の向上、ICT活用による指導方法の充実、地域連携や交流及び共同学習の推進等を通じて、個々の障害特性に応じた学習環境を整え、指導の充実を図ることが求められている。また、感染症拡大防止を最優先としながら、対策を十分行い教育活動を停滞させない「八二養新学習スタイルプロジェクト(HSP)の推進にも取り組んでいる。
(3) 重点目標	1 新たなレベル分類に応じた教育活動の推進 2 授業の充実 3 教員の専門性の向上 4
(4) 結果の公表	集計結果について、保護者に対しては紙媒体で配布、教職員に対しては電子媒体を用いて職員会議で説明し、地域に対しては学校ホームページに掲載することにより周知する。

学校整理番号	特14
学校名	青森県立八戸第二養護学校
対象障害種別	視覚・聴覚(知的)・肢体・病弱
自己評価実施日	令和5年12月18日(月)
学校関係者評価実施日	令和6年2月1日(木)

(9) -イ 学校関係者評価委員会の構成
・学校運営協議会委員 7名 ※本校PTA会長、うみねこ学園長、社会福祉法人サポートセンター虹理事長、元八戸第二養護学校校長、是川保育園園長、校医、障害者就業・生活支援センターみなと副センター長

自己評価				学校関係者評価		
番号	(5) 評価項目	(6) 具体的方策	(7) 具体的方策による目標の達成状況	(8) 目標の達成度	(9) -ア 学校関係者からの意見・要望・評価等	(10) 次年度への課題と改善策
1	新たなレベル分類に応じた教育活動の推進	①「八二養新学習スタイルプロジェクト(HSP)」の充実を図る。 ②児童生徒自身が取り組む健康管理に対する意識の向上を図る。 ③新たな感染症対策の指針を基本とした教育活動の取組を行う。	・新たな感染症対策の指針に基づいて、教科の系統性を踏まえながら、必要な集団活動の学習を展開した。	A	・安心安全な学校を目指し、日々工夫しながら教育活動を展開している。	・感染症対策を講じながら、子どもたちの実態に応じた系統性のある学習活動を展開していく。
2	授業の充実	①学んでほしいことを明確にした授業の展開 ②「指導内容表」に基づく妥当性のある指導 ③確かな学習成果につながる指導や手立ての充実 ④学習の成果を的確に捉え、授業改善を図ることのできる学習評価の充実	・学びの履歴チェックシートや指導内容表を指導者間で活用し、学びの系統性、連続性を重視した取組を引き続き行うことができた。 ・自立活動推進リーダーを活用しながら、話し合いを行い、授業改善を行った。	A	・教育環境が整い、教職員の評価が高くなって、自己研鑽が進んでいる傾向が読み取れる。今後も継続して進めて欲しい。	・できたことを褒め、できた内容の次の課題について、指導内容表や授業改善シートと関連付けながら、子どもたちの達成感を大切に授業を展開していく。
3	教員の専門性の向上	①ICF関連図等の活用に基づく個別的教育支援計画等の的確な作成 ②授業でのICT活用による指導方法の情報共有 ③「特別の教科道徳」の評価指標を活用した実践の充実	・特別の教科道徳の指導について、校内研究で取り上げ、外部講師を招いての学習や話し合いを計画的に進めることにより、学校全体で指導と評価の改善を行うことができた。	A	・子どもたちの実態に応じた、きめ細かい指導を行っている。引き続き子どもたちの気持ちに寄り添った指導をお願いしたい。	・校内研究で得られた成果や課題点について、次年度の研究に関連させながら、研修の充実を図っていく。
4	信頼される学校づくりの推進	①学校における危機管理体制等の整備 ②学校運営に関する保護者への丁寧な説明と理解推進	・緊急時引渡訓練を実施し、保護者と協力して緊急時に備えて、方法や流れについて確認を行うことができた。 ・参観日などに学校運営に関する内容の説明やHPで学習の様子をアップするなどして理解の推進を図った。	B	・保護者が安心して頼れる場所として学校があると思うので、保護者の気持ちを受け止めた学校づくりを今後もして欲しい。	・学校運営協議会を活用しながら、保護者や地域の方と一緒に学びを作っていくという観点で連携を深めていく。
5	労働環境の改善	①勤務時間の適正化による業務改善の取り組み ②全教職員によるワーク・ライフ・バランスの積極的な取り組み	・デジタル化を進め、校務の内容を整理し時間の創出を行った。 ・会議の実施日や実施時間を調整し、休暇等を取得しやすようにした。	B	・デジタル化を進めながら、子どもたちと向き合う時間を作りたい。 ・アナログの良さも大切にしながら、改善を図って欲しい。	・デジタル化で削減できる内容を抽出し、取り組む内容を具体的に示して実践する。 ・月の会議等の調整を行い、見直しをもって業務を行えるようにする。

(11) 総括	保護者からの評価について、アンケートの回答結果から、全体として肯定的な回答群(「よく出来ている」及び「出来ている」)は全ての項目で90%を超えており、評価は高いといえる。また、全ての項目において、昨年よりも良い結果が同ポイントであった。特に「学校は、子どもたちの個人情報について、プライバシーを優したり、不利益を与えたりしないよう、その取り扱いに注意している。」「学校は、事故防止に努め、非常災害時や事故発生時には、速やかに対応できるようにしている。」は肯定的な回答群が100%であった。一方、「学校は保護者と話し合う時間を十分設けている。」「学校は、前年度担当者と適切な引き継ぎを行い、継続した指導や積み重ねをした教育を行っている。」について、肯定的な回答群は、昨年の88%~89%から93%にアップはしたものの、標準化した値においては、昨年に引き続き下位に位置する結果となった。これらの項目は、日々の指導等が大切になってくる内容であることから、保護者のニーズを踏まえながら組織的にどのような体制や支援のあり方が必要かを検討し、具体的にできる内容について考え、改善策を示して実行していく必要がある。 教職員からの評価について、肯定的な回答群は、昨年あった顕著に低い値は改善され、80%が2項目で、その他の16項目は90%以上であった。昨年評価の低かった「働きやすい職場になるよう学校全体で業務を見直し改善を図っている。」「学部および分掌間の連絡・調整が十分に図られ、効率的な教育活動を行っている。」「分掌組織は、年齢や経験等のバランスがとれ、適材・適所となっている。」については、数値的に改善が読み取れる。しかしながら、標準化した値においては、業務の見直しについて下位に位置しており、デジタル化を進め子どもたち向き合う時間を創出するなど、具体的な働き方改革を示して、取り組んでいく必要がある。
---------	--